

人口と世帯
 (外国人含む)
 人口 426,269人
 男 209,821人
 女 216,448人
 (前月より84人減)
 世帯 186,796世帯
 (前月より16世帯増)
 (2013年12月1日現在)

発行・町田市 編集・政策経営部広報課
 〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
 市役所の代表電話 042・722・3111
 市役所の窓口受付時間 午前8時30分～午後5時
 発行日・毎月3回1の日(1日、11日、21日)
 ホームページ <http://www.city.machida.tokyo.jp/>



今号の紙面から

2面

冬を快適に過ごしましょう

7面

年始の救急診療



迎春

小野路宿里山交流館

小野路宿里山交流館が初めてのお正月を迎えました。1月5日(日)～15日(水)は、お正月特別メニューの小野路しるこ(500円)、小野路雑煮セット(800円)が召し上がれます。なお、いずれのメニューも各日30食程度の数量限定です。身体が温まる甘酒(150円)もご用意しています。

○開館時間 午前9時～午後5時(1月3日まで休館)
 ○所在地 小野路町888-1
 ○問い合わせ先 ☎860・4835 ☎860・4836
 ※1月4日は、物販、飲食の提供は行いません。
 ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用下さい。
 ※詳細は町田市ホームページをご覧ください。



新春市長対談

未来の町田市を担う若者たちへ
 町田市市民栄誉彰受賞の
 伊賀健一氏を招いて



謹んで新春のごあいさつを申し上げます

2014年最初の広報まちだは、昨年町田市市民栄誉彰を受賞された伊賀健一氏と石阪市長の対談をお届けします。

石阪文一市長 明けましておめでとございます。2012年からスタートした町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」も、今年4月で3年目を迎えます。その主要施策の一つ「将来を担う人が育つまちをつくる」にふさわしいゲストとして、伊賀健一氏にお越しいただきました。科学との出会い、町田市とのつながり、世界に通用する人づくりなど、科学者として、教育者としてのお立場から、大いに語っていただきたいと思えます。

石阪 まずは、昨年4月に米国防ランクリン財団から「2013年フランクリン賞」の「パウワー賞」を受賞されたことをお祝い申し上げます。

伊賀健一氏 ありがとうございます。実は受賞の連絡を受けた当初は、「フランクリン賞・パウワー賞」のことを私自身がよく分かっていませんでした。科学・技術への功績に対して贈られる、米国では非常に有名な賞です。フランクリン賞の受賞者にはエンジンやライト兄弟、ベルやインシュタイン、キュリー夫人など、そうそうたる名前が並んでいて、改めてその權威の高さを知った次第です。パウワー賞は同賞の中で最高位のもので、

石阪 小さい時に科学的な刺激が与えられることは、後年に影響が大きいのではないのでしょうか。私も小学生の時に理科クラブで鉱石ラジオを作ったことから、機械工作、科学技術への興味が大きくなり、中学生の時には自分で設計して作った飛行機で空を飛ぶことが夢でした。もっとも物理部に入部した最初にペルヌーイの定理が理解できず、一転、志向を変えてサッカー部に入ったのですが(笑)。

伊賀 小学生の時はみんな理科が好きなんです。それが大人になる前に理科から離れていってしまうのには、大きく3つの理由があると思っています。1番目は早くに進路を仕分けられてしまうこと。小学生は理科が好きなのに、その後受験などで進路の問題が出てきて、理系、文系とか仕分けされてしまう。2番目はお母さんです。お母さんは理科に関心が薄い方が多い。そもそも理系出身という確率が少ないですからね。3番目はやはり大学受験です。私立大学

石阪 そういう賞を受けられたことは、町田市としても本當にうれしく思います。

科学との出会い
伊賀 私の出身は広島県呉市で、父は造船所にドックマスタとして勤務していました。家には畑があって、野菜はほとんど自給していました。畑も山も身近でしたから、自然豊かな野山を駆け回って育ちました。少し大きくなっ

てからですが、祖父が趣味で